２０１２年 ＩＳＡＦ年次会議＆総会 レポート（速報）

カウンシルの決定が年次総会で見直し要求されるという前代未聞のドラマ
５月会議でのカイトへの変更はウィンドサーフィンに戻された！！

於 ： ダブリン アイルランド １１／３－１０．２０１２
報告 大谷 たかを（ISAF イベント委員、カウンシルメンバー）

ＩＳＡＦが５月のミッドイヤーミーティグでまだまだ競技としての発展が未熟ともいえるカイトボーディングをウィンドサーフィンに変えることを決定したことは世界中のセーリング関係者を驚かせた。オリンピックで金メダルを取った直後にすぐにカイトの乗り換えたトップセーラーから、やっとウィンドサーフィンが根付いたところで途方に暮れている発展途上国まで、世界中のセーリング競技関係者の中では、はたしてこのままカイトボーディングで行くのかという疑心暗疑の６か月でもあった。
微風が予想されるリオでカイトのレースはできないのでは？ ボックスルール（認定された一般市販のギアから選択可能）だと費用に歯止めがかからず資金力の競争になってしまうのでは？..... といったカイト競技に対する不安とウィンドサーフィンは競技人口が減って若者に見向きもされなくなって来ているという意見が渦巻く中、ＩＳＡＦ役員会からの提案を含め世界各国からカイトからウィンドに戻すべきだという３９件の提案が出された。日本もアジア諸国と連携して提案を出したのは言うまでもない。

５月のカウンシルの決定を見直すためには１１月のカウンシル会議で７５％の票が必要であるため、５月の会議でかたくなにカイトを推していた会長以下７名の副会長よりなる役員会だけでも２０％、カイト推進のアメリカ、カリビアン、アイルランドを含めると不可能という悲観的な見通しであった。

カウンシルに先立ったイベント委員会では「見直すべき、カイトは時期早尚、リオ大会はウィンド」とあっさり決まりカウンシルに提言された。いよいよカウンシル会議、翌日の年次総会（ＩＳＡＦに所属するＭＮＡ（各国ヨット協会）が参加する）関係者が続々と到着する中、ロビーでは多くの議論が交わされ、今までには見られない熱を帯びていた。会議場のオブザーバーエリアを拡張するほどとなった注目の「見直すべきか否か」という投票。会場全体が息をのむ中スクリーンに映し出されたのは賛成２６ 反対１２！！ 必要となる７５％にわずかに届かず、大きなざわめきだけが残った。５月に続き使用するギア、競技方法等、議論すべき詳細に触れないまま..... の決定に憤懣やり方のない６０％を超えるカウンシルメンバーがどれだけ落胆したかは計り知れない。

だが、そこには一つだけ見直しの可能性が残されていた...カウンシルによるこの一年間の決定を翌日の世界中のＭＮＡが参加する年次総会で了承（拍手だけで決まる いわゆるシャンシャン総会ではあるが）する必要があるということだ。ＪＳＡＦはこの総会でカイト/ウィンドの決定を見直すべきだという提案を世界中に呼びかけていた。提案に同調して実際にＩＳＡＦに書面で要求していたのは韓国、香港、イスラエル、フランス（フランス案は男子：カイト、女子：ウィンドという折衷案）。
総会の会場となる劇場には、今年は４年に一度の会長選挙の年に当たり多くのＭＮＡがそれぞれの推す会長に投票するために通常総会の倍以上の国代表が集まってきた。
総会ではカウンシルと異なり見直しに必要な票数は過半数、入りきれないオブザーバーが出るほどとなった劇場で熱い議論が交わされた後、いよいよ日本の提案する男女とも「カイトではなくウィンドを」の投票！！
投票結果がスクリーンに映し出される息をのんで待つ.....

「賛成　　５１％」
日本案が過半数をとったためフランスの折衷案への投票は無くなり、２０１６年のリオ五輪にはロンドン大会同様のウィンドサーフィンが残ることとなった。 ユースからの地道な活動が途切れてしまうのではと憂慮していた世界中のウィンド関係者のホッとした息使いが感じられたような気がした。
２０１６年リオ大会でのカイトセーリングのデビュー可能性はゼロになったがそのユニークさを「売り」としてＩＯＣに新たなメダルを求めていくことも可能であろうし、現行の他種目とに差し替えるという案もすでに浮上している。

その他の主なトピックは

１．ロンドンオリンピック

風にも恵まれたウエイマスでのオリンピックセーリング競技はセーリング競技では初めて取り入れられた観客席目の前でのクライマックスメダルレースの採用もありＴＶ放映を含めて非常に満足のいくものであった。フォーマット等をさらに見直して「見れるセーリング競技」を目指していく。同時に費用の削減のための期間縮小、コースエリア減少等の見直しも行われるが、微風が予想されるリオでは逆に予備日増加の検討も行われる。

２．２０１６年リオ大会への国枠クオリファイなど

２０１４年ＩＳＡＦワールド(サンタンデール スペイン)で５０％、それ以外は２０１５-２０１６（３月まで）の大陸別選手権(それぞれの国が属するあるいは近隣の大陸別選手権のうち１-２の指定大会)となる模様。２０２０年まで固定艇種となるコアイベントとして男子一人乗り：レーザー、女子一人乗り：レーザーラジアル、男子２人乗りスキッフ：４９ｅｒ、女子２人乗りスキッフ：４９ｅｒＦＸがいずれもコアイベントしての決定に必要な３分の２以上の賛成票を集めて決定された。日本も提案していた男子、女子二人乗り４７０はいずれも票がかなり足りなかった。 カイトがカムバックしてくると二人乗り種目が４７０とスキッフで重複しているだけに、「男女混合二人乗り４７０」という提案が強く出てくる可能性が高い。

３．　アジアの動き

２０１３－１４のＩＳＡＦワールド カップ招致に成功したチンタオ(中国)が会議最終日にレセプションを開いた。多数のチャーターボート、10万ドル(800万)の賞金、ＩＳＡＦへの20万ユーロ(2000万)の公認料という契約内容の一端を見せるような派手なレセプションで参加者を驚かせた。２０１４年には日本でレーザー４．７世界選手権、２０１５年にはマレーシアでＩＳＡＦユースワールドの準備が進んでいる。
２０１５-６年には日本で４２０ワールドをという話も進んでいるが、２０２０五輪招致を目指す東京にはＩＳＡＦユースワールドや２０１８年のＩＳＡＦワールド（国枠の５０％決定大会）といったメジャー大会を招致するぐらいの勢いが欲しい。

４．ＩＳＡＦの会長/副会長の選挙

オーストラリアのデイビット・ケレット（ＩＳＡＦ財務部長）プエルトリコのエリック・トゥラ（ＩＳＡＦ副会長)、イタリアのカルロ・クローチェ(イタリアＳＦ会長 写真中央左)の３氏が立候補しカルロ・クローチェが２０１２-２０１６年の会長に選出された。

同時に行われた副会長選では写真左からリー・チャンハイ(中国)、クリス・アトキンス(英)、ギャリー・ジョブソン(米)、新会長カルロ・クローチェ、名誉会長コンスタンチン国王、ナズリ・イムレ(トルコ)、ジョージ・アンドレアス(ギリシャ)、エイドリアン・グリーンウッド（ＮＺ)、スコット・ペリー(ウルグアイ)の７氏が選出された。後列は新カウンシルの面々(東アジア代表はカール・クゥォック（香港）と大谷 たかを(日本)。

５．新加盟国

コソボ、ベトナムが承認された。

６．新インターナショナルクラス

ＲＳ１００，Ｍｅｌｇｅｓ－２０，Ｊ１１１，Ｓｗａｎ６０がワンデザインクラスとして承認された。

７．レースオフィシャル関係＆オフショア関係

グッドニュースは待望の国際レースオフィサー（ＩＲＯ）に岡田彰、エクィップメント委員会にＪＳＡＦ国際委員長の堤智章、ＩＪサブコミッティーに増田開、アンパイアーサブコミッテイーに田中正昭 各氏が任命されたことだ。なお、デヴェロップアンドユースおよびルール委員会の柴沼克己、オセアニック＆オフショア委員会の小林昇、イベント委員会とカウンシルの大谷たかを各氏は続投。ＯＲＣ関係のオフショアカウンシルは1名に減員のため植松眞ＪＳＡＦ副会長あるいは小林昇が続投。

詳細については柴沼克己ルール／デヴェロップ＆ユース委員および小林昇オセアニック＆オフショア委員のレポートを参照。

８．ＴＶの実況中継された本年のセーラー オブ ザイヤーの発表授与式

男子がベン・エインズリー(英：金メダル４度目、銀１個を合わせると鉄人エルブストロームの記録を塗り替)、女子がシュー・リュージャ(中国：レーザーラジアル銅＆金メダル)。何度もの怪我から立ち直り、一点差で並ぶ３強豪を相手にフィニッシュ順でメダルの色が決まるという、もっとも劇的なメダルレースを制した。一回り華奢な体格のシューによる強風ウエイマスでの金メダルはひときわ光るものがあり、日本人に見習うべき大きなものがあるといえる。

９．今後の会議予定

２０１２年 ミッドイヤー会議	デンマーク	未定
２０１３年 年次会議＆総会	オマーン	11/7-17

以上